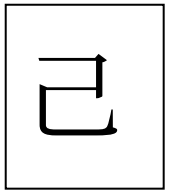

己は、𠂇で、曲がりくねった糸の象形です。糸の先端を表わしているところから、“はじめ”という意味を表わした指事字で、「紀」の本字です。今は、「自己」というように使われていますが、これは仮借です。音はキ、またはコ。

紀は、己が“おのれ”の意味に使われるようになったため、“糸の先端”を表わす字として、己に糸を加えて作られた会意形声字です。音は己(キ)です。“はじめ”が本義ですが、記（しるす）の意味にも使われます。紀元。紀行。

記は、糸すじの意味の己と言との会意形声字です。“言葉を糸のように長く続ける”という意味の字で、言葉を整理し、順序立てて“書きしるす”ことです。記録。記憶。記念は“心にしるす”意味のことばです。

忌は、“おのれ”の意味の己と心との会意形声字です。“おれがおれがという心はいむべきである”という意味の字で、“いむ”ことを表わしました。

“心からきらう”“避ける”という意味に使います。忌避(キヒ)。嫌忌(ケンキ)。

起は、はじめの意味の己と走との会意形声字です。“走ることのはじめ”は“立ち上がること”であるという考えで、“立つ”または“おきる”という意味を表わしたものです。音は己(キ)です。起立。起床。また、己の本義の“始める”という意味にも使います。起工。起算。起原。